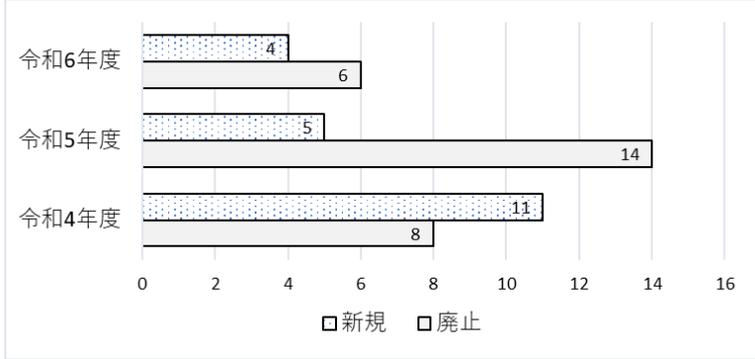


件名	地域密着型サービス事業者等の新規及び更新指定について												
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 介護保険課												
内容	<p>前回報告以降、地域密着型サービス事業者等の新規及び更新指定を行ったので、以下のとおり報告する。</p> <p>1 報告対象期間 令和6年11月1日から令和7年1月31日</p> <p>2 新規指定 1事業所 (1) 新規事業所 【介護予防支援】（南東地区） 事業所所在地 足立区青井三丁目7番17号 Kotakiビル2F／3F 運営法人 株式会社モノトビ 事業所名 居宅介護支援モノトビ 指定年月日 令和7年1月1日</p> <p>3 更新指定 2事業所 (1) 更新事業所 【地域密着型通所介護】（南西地区） 事業所所在地 足立区宮城一丁目28番16号 運営法人 ココプロ株式会社 事業所名 デイサービスぬくもりの家宮城 利用定員 10名 指定更新年月日 令和6年12月1日</p> <p>(2) 更新事業所 【認知症対応型通所介護】（千住地区） 事業所所在地 足立区柳原一丁目29番16号 運営法人 社会福祉法人すこやか福祉会 事業所名 認知症デイサービス よりみち 利用定員 12名 指定更新年月日 令和6年12月1日</p> <p>4 地域密着型サービス事業所増減数比較</p>  <table border="1" data-bbox="459 1697 1214 2056"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>新規</th> <th>廃止</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和6年度</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>5</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>11</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 介護予防支援は令和6年度から指定のため含まない。 ※ 令和6年度は1月31日現在</p>	年度	新規	廃止	令和6年度	4	6	令和5年度	5	14	令和4年度	11	8
年度	新規	廃止											
令和6年度	4	6											
令和5年度	5	14											
令和4年度	11	8											

件名	介護保険業務委託の公募型プロポーザルによる事業者の特定結果について
所管部課名	福祉部 高齢者施策推進室 介護保険課
内容	<p>介護保険業務委託事業者プロポーザル選定委員会における審査の結果、以下の事業者を契約の相手方として特定したので報告する。</p> <p>1 業務名 介護保険業務委託（平成26年度から開始。3期目の選定）</p> <p>2 業務目的、内容 窓口業務のほか内部事務を含めた業務委託について公募型プロポーザルで、民間企業の視点を活かした提案を受け、選定することで、サービスの質的向上や事務効率の改善ならびに行政コストの削減を目指す。 委託の範囲は、介護保険業務に関する以下の業務 (1) 介護認定業務（要介護認定申請入力、認定審査会準備等） (2) 資格保険料業務（介護保険被保険者証発送、保険料決定通知発送等） (3) 保険給付業務（高額介護サービス費入力、住宅改修申請入力等） (4) その他業務（元気応援ポイント事業入力等） (5) 窓口業務（介護認定、資格保険料、保険給付関係の受付）</p> <p>3 特定した相手方 (1) 事業者名 パーソルビジネスプロセスデザイン株式会社 （代表者 藤原 理絵） (2) 所在地 港区芝浦3-4-1 グランパークタワー33階</p> <p>4 申込事業者数 1事業者</p> <p>5 現在の受託者 パーソルビジネスプロセスデザイン株式会社 （令和6年10月1日、グループ内事業再編により、パーソルテンプスタッフ株式会社から名称変更）</p> <p>6 提案価格 1,165,947,552円（税込） 参考：平成31年度～令和6年度 977,743,920円（税込） ※ 188,203,632円（約19.24%）の増</p> <p>7 業務期間 令和7年4月1日から令和13年3月31日（6年間）</p> <p>8 特筆すべき提案概要、評価した理由・ポイント (1) ユニフォームを導入し窓口の統一感を図るほか、名札をピンタイプにすることで視認性を向上させる。</p>

(2) 提案説明をした現場責任者たちは、質疑応答にも真摯に対応し、業務理解度や熱意が伝わった。現場の従事者たちにも伝え、窓口サービスの向上につなげてほしい。

(3) デジタルツールを活用した作業の自動処理化の導入などによる業務改善提案があった。一方で、提案実現にかかる費用などの具体的な検証・検討が必要であるとの意見があり業務改善提案の評点が若干低くなった。

9 特定までの経緯

(1) 公募期間 令和6年8月29日から9月17日まで

(2) 選定委員会

ア 委員会開催状況

	開催日	内容	審査事業者数
第1回	8月28日	選定方法や評価項目等の確認	—
第2回	10月15日	第一次選考(提案書提出者の選定:書類審査)	1事業者
第3回	11月22日	第二次選考(事業者の特定:プレゼンテーション、ヒアリング)	1事業者

イ 委員構成(計7名)

種別	氏名	役職等
学識経験者 (3名)	大口 達也 【委員長】	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校 講師
	森 直美	弁護士
	高橋 英一	社会保険労務士
区民代表 (1名)	鈴木 健治	民生・児童委員
区職員 (3名)	馬場 優子	衛生部長
	依田 保	地域のちから推進部長
	半貫 陽子	高齢者施策推進室長

ウ 審査項目及び審査結果

添付資料「介護保険業務委託プロポーザル選定結果」のとおり

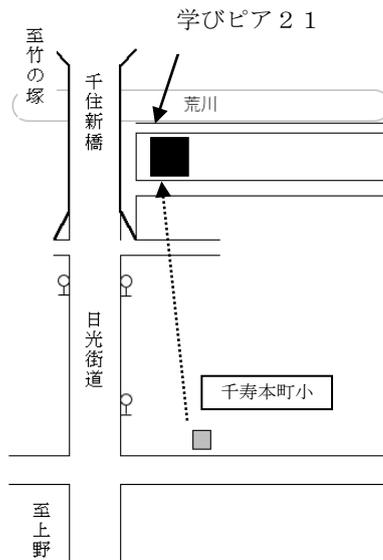
10 今後のスケジュール

令和7年4月1日からの契約に向け、特定事業者と提案に基づく仕様書の調整を行う。

11 今後の課題

委託業務内容が広範かつ複雑であり、応募事業者の確保が難しい現状があることから、募集期間を延長するなど募集方法の工夫を検討する。

件名	介護予防・認知症予防普及啓発講演会について
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課
内容	<p>令和7年度より開始する「複合介入型はつらつ高齢者促進事業」を周知し、介護予防・認知症予防の普及啓発を推進していくことを目的として、以下のとおり講演会を実施する。</p> <p>1 講演会の目的 運動、栄養、脳トレ等様々な取り組みを複合的に実施することが介護予防・認知症予防に効果があり、その重要性を区民に伝える。</p> <p>2 日時・場所 令和7年3月20日（木・祝）午前10時から12時 足立区生涯学習センター 講堂</p> <p>3 申込人数 150人（先着順）</p> <p>4 申込期間 令和7年2月12日から2月28日まで（足立区コールセンターで受付）</p> <p>5 講師 山本 學さん（俳優、認知症本人） 朝田 隆医師（一般社団法人MCIリング代表、山本學さんの主治医）</p> <p>6 内容 （1）山本學さん、朝田隆医師による対談及び、運動や脳トレの実技 （2）朝田隆医師による講演 （3）区職員による複合介入型はつらつ高齢者促進事業の紹介</p> <p>7 周知方法 （1）あだち広報2月10日号 （2）地域包括支援センター、学習センター、住区センター等へチラシ配布</p> <p>8 「あだち脳活ラボ」登録会について 講演会参加者で登録希望の方を対象に、講演会終了後登録会を実施する。</p> <p>9 その他 アーカイブ配信を実施する。</p>

件名	「地域包括支援センター千住本町」の移転について
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課
内容	<p>地域包括支援センター千住本町について、以下のとおり、事務所の移転を行うことになったので報告する。</p> <p>1 現住所 足立区千住三丁目7番地 平松ビル101</p> <p>2 移転先 足立区千住五丁目13番5号 生涯学習センター（学びピア21）7階</p> <p>3 運営開始日 令和7年3月17日（月）</p> <p>4 周知方法 （1）区ホームページに掲載 （2）あだち広報（2月10日号）に掲載 （3）地域包括支援センター等で案内チラシを配布 （4）担当地域の町会・自治会に回覧板を回し、掲示板に貼付</p> <p>5 運営委託法人 社会福祉法人 東京蒼生会</p> <p>6 担当地域 千住、千住元町、千住大川町、千住寿町、千住柳町</p> <p>7 電話番号・FAX番号（変更なし） 電話 3888-1510 FAX 5813-8336</p> 

件名	令和6年度「第43回足立区障がい者週間記念事業」の実施結果について																																	
所管部課	福祉部 障がい福祉センター																																	
内容	<p>障がい者・児の自立と社会参加の意欲向上、区民の理解向上と啓発を目的として、「障害者基本法」で定める障害者週間（12月3日～9日）にあわせて実施した障がい者週間記念事業（障がい者アート展）について、結果を報告する。</p> <p>1 実施日時・場所等</p> <p>(1) 庁舎ホール 令和6年11月30日（土） ※5年ぶり開催 記念式典（来賓挨拶等）、デフリンピック選手による手話トーク、障がい者団体によるダンス等の発表</p> <p>(2) 区役所1階アトリウム</p> <table border="1" data-bbox="336 878 1348 1102"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>期 間</th> <th>時 間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作 品 展</td> <td>11月29日（金） ～12月5日（木）</td> <td>午前9時～午後5時</td> </tr> <tr> <td>お楽しみコーナー （販売・体験）</td> <td>11月30日（土） ～12月5日（木）</td> <td>午前10時～午後5時</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 実施結果</p> <p>(1) 庁舎ホール</p> <p>ア 冬季デフリンピック・トルコ大会女子アルペンスキー銀メダリスト田苗優希選手（足立区在住）による手話トーク</p> <p>(ア) 概要 幼少期から家族と共にスキーに親しみ、世界大会では外国の手話の一部がわからない等の苦労はあったものの、世界の選手と同等に戦えた喜びを語っていた。「令和7年度の東京大会も楽しみにして欲しい」と非常に前向きな内容。</p> <p>(イ) 来場者数 150人</p> <p>イ ふれあい発表会 来場者数350人 障がい者団体6団体によるダンス、楽器演奏、和太鼓、合唱等</p> <p>(2) 作品展 障がいのある方が制作した絵画や陶芸等の作品を展示した。</p> <table border="1" data-bbox="336 1740 1348 2085"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>来場者（※）</th> <th>作品出品者</th> <th>作品数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,670人</td> <td>56団体、個人4人</td> <td>906点</td> </tr> <tr> <td>令和2、3年度</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">（コロナ禍のため実施せず）</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>2,580人</td> <td>45団体、個人2人</td> <td>434点</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>4,036人</td> <td>37団体、個人2人</td> <td>418点</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>4,208人</td> <td>36団体、個人2人</td> <td>346点</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	期 間	時 間	作 品 展	11月29日（金） ～12月5日（木）	午前9時～午後5時	お楽しみコーナー （販売・体験）	11月30日（土） ～12月5日（木）	午前10時～午後5時	年度	来場者（※）	作品出品者	作品数	令和元年度	3,670人	56団体、個人4人	906点	令和2、3年度	（コロナ禍のため実施せず）			令和4年度	2,580人	45団体、個人2人	434点	令和5年度	4,036人	37団体、個人2人	418点	令和6年度	4,208人	36団体、個人2人	346点
内 容	期 間	時 間																																
作 品 展	11月29日（金） ～12月5日（木）	午前9時～午後5時																																
お楽しみコーナー （販売・体験）	11月30日（土） ～12月5日（木）	午前10時～午後5時																																
年度	来場者（※）	作品出品者	作品数																															
令和元年度	3,670人	56団体、個人4人	906点																															
令和2、3年度	（コロナ禍のため実施せず）																																	
令和4年度	2,580人	45団体、個人2人	434点																															
令和5年度	4,036人	37団体、個人2人	418点																															
令和6年度	4,208人	36団体、個人2人	346点																															

※ 令和元年度及び令和6年度の来場者数は、庁舎ホールでのふれあい発表会等の人数を含む。

※ 作品の制作過程や支援者へのインタビューの動画をSNSにアップし、会場でも上映したことで、集客の増加に繋がった。

(3) お楽しみコーナー（販売・体験）

障がいのある方の自主製品の販売や、障がい者団体・区内事業者等による展示・体験コーナーを日替わりで実施した。

ア 販売コーナー

(ア) 出店数：10団体（令和5年度：8団体）

(イ) 販売物：パウンドケーキ、クッキー、手芸品、カレンダー等

イ 展示・体験コーナー

(ア) 内容：5団体（令和5年度：5団体）による、手話体験、マッサージ体験、デフリンピック紹介等

(4) 展示作品のデザイングッズ販売

作品展の出品作品をモチーフにしたTシャツやトートバッグ等のデザイングッズ販売を新規開始した。売上金の一部は作品制作者に支払われる。

令和6年12月26日現在の販売数 16点

3 主な意見・感想

(1) 参加団体

ア 初めて式典からふれあい発表会まで観れて感動した。

イ イベント内容がとても良かったので、来年はもっと宣伝したい。

ウ 中学校の支援学級等からの作品出展が少なくさびしい。

(2) 来場者（アンケート 735件から）

ア 毎年、楽しみにしています。作品の一つひとつが素敵でした。

イ 式典では、言葉に深みがあり、現場での有様がうかがえました。ふれあい発表会は、会場全体がノリノリで最高でした。

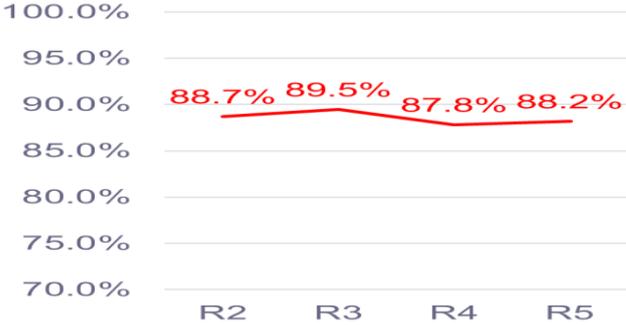
ウ デフリンピックの講演会を聞いて、ボランティアをしようと思いました。より福祉への関心が高まるとよいです。

エ 自分のデザインが商品になり、買った人にも喜びを与え、作者も経済的にも社会的にも豊かになることは意義深いです。

オ 当事者・関係団体に加えて、さらに区民の参加が増えるようPRして、魅力をもっと伝えて欲しい。

カ 今回は聴覚障がいの理解が中心でしたが、他の障がいの方の特性なども広くアピールできるような企画を期待しています。

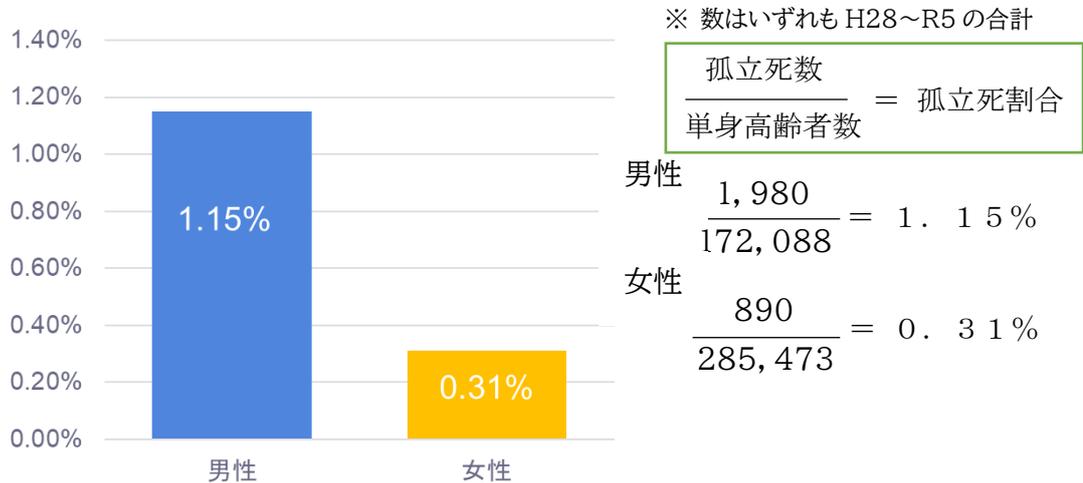
キ 荒川区障がい福祉課が視察。実行委員会形式での実施や展示以外の企画について今後の参考にしたいとのこと。

件名	足立区における高齢者の孤立死の現状について																																																																																																																																																						
所管部課	地域のちから推進部絆づくり担当部長付絆づくり担当課																																																																																																																																																						
内容	<p>東京都監察医務院から令和5年の高齢者孤立死データの提供を受け、「足立区の高齢者孤立死データ分析結果」（資料6-1）をまとめたので報告する。</p> <p>本分析では「単身者の自宅での不自然死」を「孤立死」と定義し、自宅で看取られ医師が検死したものは含まない。</p> <p>なお、主な内容は以下のとおり。</p> <p>1 死亡時期別の集計と分析</p> <p>(1) 令和5年の孤立死者数は集計開始以降最多 [資料6-1 P3] 年の半分の月でも最多を記録</p> <table border="1" data-bbox="308 976 1345 1361"> <thead> <tr> <th></th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>34</td> <td>18</td> <td>29</td> <td>13</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>23</td> <td>9</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>282</td> </tr> <tr> <td>平成29年</td> <td>35</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>14</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>35</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>平成30年</td> <td>50</td> <td>33</td> <td>19</td> <td>10</td> <td>24</td> <td>18</td> <td>55</td> <td>27</td> <td>18</td> <td>26</td> <td>23</td> <td>33</td> <td>336</td> </tr> <tr> <td>令和元年</td> <td>51</td> <td>28</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>33</td> <td>58</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>349</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>34</td> <td>38</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>59</td> <td>32</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>40</td> <td>384</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>37</td> <td>35</td> <td>19</td> <td>35</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>35</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>27</td> <td>32</td> <td>331</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>61</td> <td>23</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>34</td> <td>43</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>32</td> <td>43</td> <td>444</td> </tr> <tr> <td>令和5年</td> <td>59</td> <td>42</td> <td>38</td> <td>36</td> <td>33</td> <td>40</td> <td>54</td> <td>39</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>26</td> <td>30</td> <td>474</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>343</td> <td>276</td> <td>258</td> <td>201</td> <td>195</td> <td>174</td> <td>260</td> <td>306</td> <td>199</td> <td>175</td> <td>206</td> <td>277</td> <td>2,870</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 夏季と冬季に孤立死者数が増加する傾向は変わらず、前者は1日の最高気温に、後者は1日の寒暖差に関連している [資料6-1 P4、6]</p> <p>(3) 特別区内全域では、エアコンが使用できる状況であった屋内での熱中症死者のうち約88%が使用しておらず、使用率を向上させる取り組みが必要である [資料6-1 P5]</p> <p>熱中症死者（屋内）のうちエアコン設置ありかつ未使用の割合</p>  <table border="1" data-bbox="435 1742 1061 2067"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>88.7%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>89.5%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>87.8%</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>88.2%</td> </tr> </tbody> </table>		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282	平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270	平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336	令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	18	25	29	349	令和2年	34	38	34	33	23	21	20	59	32	25	25	40	384	令和3年	37	35	19	35	19	19	27	35	26	20	27	32	331	令和4年	51	51	61	23	30	24	34	43	29	23	32	43	444	令和5年	59	42	38	36	33	40	54	39	40	37	26	30	474	合計	343	276	258	201	195	174	260	306	199	175	206	277	2,870	Year	Percentage	R2	88.7%	R3	89.5%	R4	87.8%	R5	88.2%
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計																																																																																																																																										
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282																																																																																																																																										
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270																																																																																																																																										
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336																																																																																																																																										
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	18	25	29	349																																																																																																																																										
令和2年	34	38	34	33	23	21	20	59	32	25	25	40	384																																																																																																																																										
令和3年	37	35	19	35	19	19	27	35	26	20	27	32	331																																																																																																																																										
令和4年	51	51	61	23	30	24	34	43	29	23	32	43	444																																																																																																																																										
令和5年	59	42	38	36	33	40	54	39	40	37	26	30	474																																																																																																																																										
合計	343	276	258	201	195	174	260	306	199	175	206	277	2,870																																																																																																																																										
Year	Percentage																																																																																																																																																						
R2	88.7%																																																																																																																																																						
R3	89.5%																																																																																																																																																						
R4	87.8%																																																																																																																																																						
R5	88.2%																																																																																																																																																						

2 性別・年代別による集計と分析

庁内関係課の協力のもと、新たに男女別・年代別の単身高齢者人口を把握することができたことにより、男女別の単身高齢者世帯率及び孤立死割合を算出することができた。

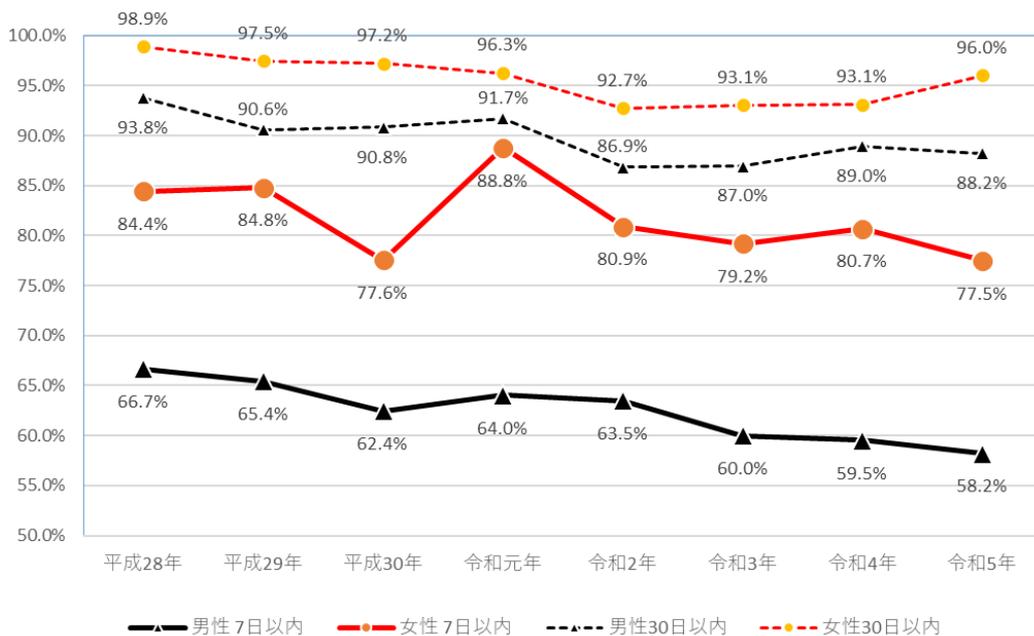
(1) 孤立死割合は男性の方が3.7倍高い [資料6-1 P8]



(2) 死後7日以内に発見される割合は、女性が8割、男性が6割

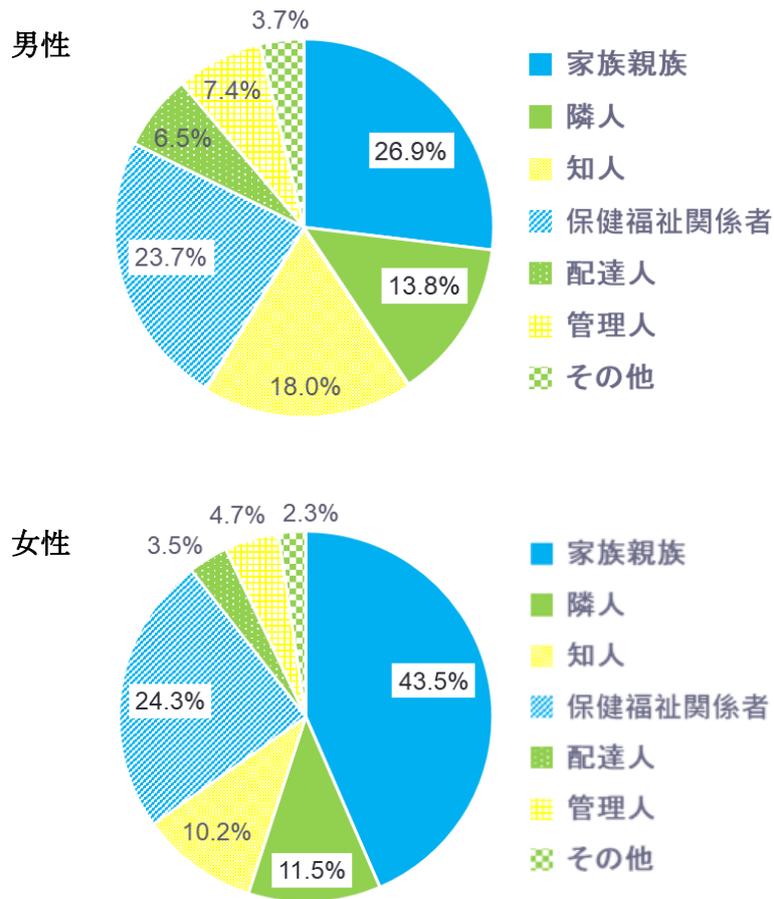
[資料6-1 P9]

発見までの死後経過日数の割合（男女別暦年推移）



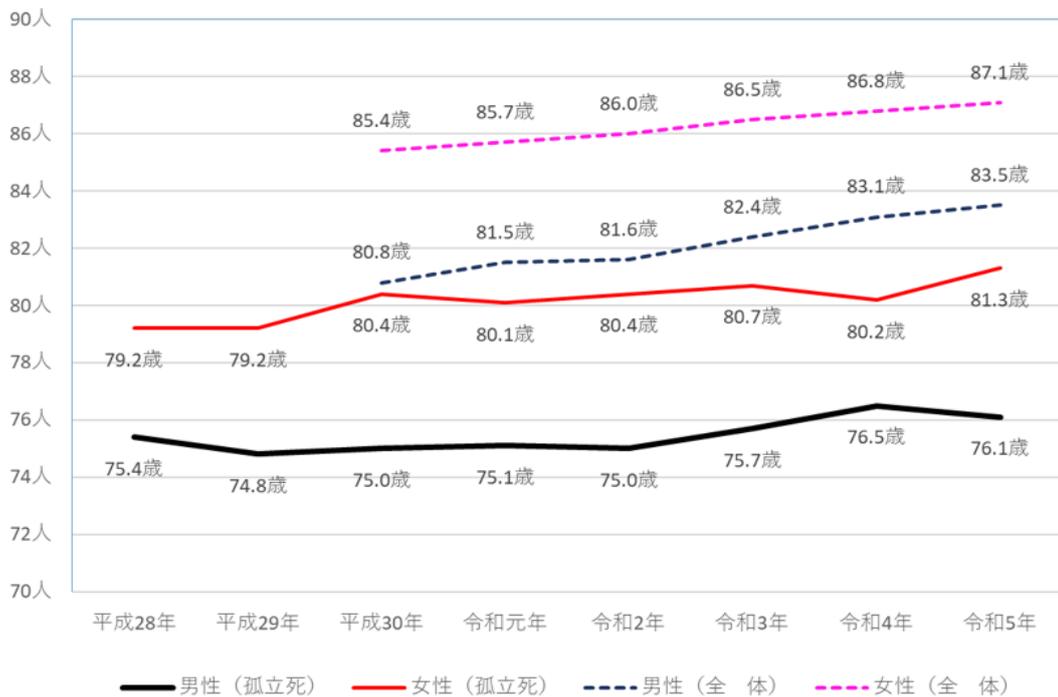
コロナ禍以降、死後7日以内に発見される割合が低下している。その理由としては、コロナ禍で疎遠となった人間関係が完全には戻っていないことが考えられる。

(3) 男性は「家族親族」の発見割合が低い [資料6-1 P9]



(4) 死亡時の平均年齢を比較すると、男女いずれも孤立死の方が早く亡くなっている [資料6-1 P10]

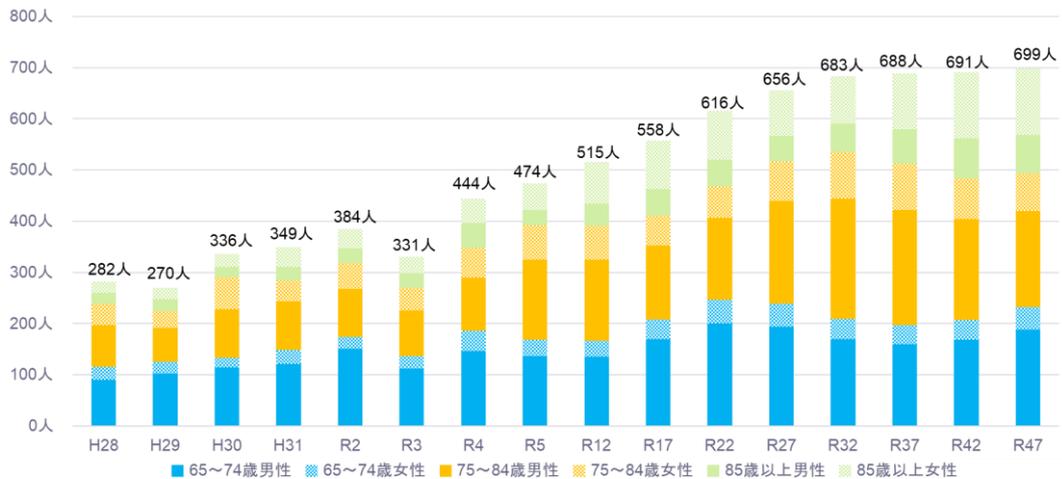
高齢者全体と孤立死の死亡平均年齢



(5) 孤立死者数を試算すると令和47年まで増加し続ける[資料6-1 P11]

令和5年の単身高齢者及び孤立死の割合を用いて、人口推計(中位推計)に基づいて今後の孤立死者数の推計を行うと、高齢者人口の増加に伴って今後も増加していくと推測される。

国立社会保障・人口問題研究所の世帯数の将来推計では、今後全国的に高齢単身世帯が増加すると予想されているため、さらに上振れすることが考えられる。



3 今後の方針

- (1) 本分析結果を庁内各課や地域包括支援センター、町会・自治会、絆のあんしん協力員・協力機関等に報告し、課題を共有していく。
- (2) 夏季・冬季に孤立死が増加するため、環境政策課(気候変動適応対策エアコン購入費補助金)、衛生管理課(涼み処マップの作成・熱中症の注意喚起等)、建築防災課(浴室暖房設置工事費助成)などの関係所管と連携を図っていく。
- (3) 熱中症対策として暑さを視覚的に訴えるため、温湿度計や熱中症啓発用うちわを配布し、エアコンの使用を促していく。
- (4) 女性に比べて男性の孤立死が多く、発見までの日数がかかっているため、引き続き地域活動等の参加を促すとともに、地域の中に男性が参加しやすい居場所づくりを働きかけていく。